

# 靖國神社秋季例大祭

## 「靈璽奉安祭」に参列して

佐藤 正 陸自78

靖國神社の最も重要な祭典の一つである秋季例大祭は、本年は合わせて御創立百五十年記念大祭も行われ、10月17日から20日までの間、清祓、當日祭、記念大祭、同第二日祭と直会の諸儀が齎行された。

今回、初日の19時から行われた靈璽奉安祭に初めて参列した。

靈璽奉安祭とは、これまで氏名不詳のまま本殿相殿あぐらの御座に奉齎されていた御座から、新たに判明した御祭神名を記した靈璽簿に神靈を遷し奉り、その靈璽簿を御正床に御奉遷する祭典で、臨時に行われる。

靖國神社には、246万6千余柱の御祭神が祀られているが、今年の靈璽奉安祭において、新たに陸軍6柱、海軍1柱の計7柱の靈璽が奉安された。当日、18時30分に参集殿に集合した。神職の誘導により、御参列の御遺族に続いて拝殿に上がって着席し、緊張しつつ儀式の開始を待った。

本殿は、日中でも厳かな雰囲気があるが、夜の帳が下りたこの時刻に拝殿から眺めると、一層肅然とした深い闇

の中で灯火を浴びていた。

19時、厳肅な雰囲気の中で靈璽奉安祭が齎行された。

まず、修祓を受けた宮司を先頭に奉仕の神職が神楽笛の演奏が流れる中、本殿の席に着かれた。そして、警蹕けいひつ（「オー」という声で敬礼を促すこと）の声と琴の調べの中で、相殿の御扉が開かれ、祝詞が奏上され、「みたまうつし」が行われた。次に、宮司は本殿の御正面の御扉の前に進まれ、御扉がお開き申し上げられると、境内の灯火がすべて消され、奏楽隊が奏でる「水漬く屍」の曲と警蹕の声が流れる中で、御霊が相殿の御座より御正床にお遷りになられた。この御奉遷の儀を終えると、再び境内の灯火が再び灯された。その後、神饌のお供え、奏楽隊による「靖國神社の歌」を奏でて神霊をお慰めし、宮司が玉串を奉りて拝礼された。続いて御遺族が本殿に上がって拝礼され、参列者全員がその後について拝礼して退下した。

今回、新たに加わった神霊を書き記した靈璽簿は、本殿後方の靈璽簿奉安殿に大切に保管されることになる。

奏楽は、國學院大學吹奏楽部の御奉仕によるもので、一連の儀式で大切な役割を果たされたことに心から感謝しつつ、夜の靖國神社を退出した。